



在京古高同窓会会報
第32号

〒113-0034
東京都文京区湯島3-20-9-707
佐藤清勝税理士事務所内
在京古高同窓会事務局
☎ (03) 5818-7673
FAX (03) 5818-7674
発行責任: 曾根 研一
編集長: 亀井 明
印刷: (株)ケーヨー

在京同窓会メモ

- ・会計年度は今年度限り6~3月、年会費は2,000円です。会の健全運営のため、同封の振替用紙での納入をお願い致します。
- ・次回会報第33号は2004年6月1日発行予定、原稿は常時受付。

新年のご挨拶

会長 三浦 澄能



明けましておめでとうございます。皆さまお揃いでお元気に新年を迎えられたことと存じます。旧年中は同窓会活動にご理解とご支援を賜り誠に有難うございました。本年も宜しくお願ひ申し上げます。さて、今年は十干十二支の「甲申(きのえ・さる)」に当たりますが、これは「新しい仕組みのタネが殻を被ったまま静かに萌芽を待っている時代を、荒々しい人の動きが掻き回す状況」を示唆しており、「回天」つまり「揺れ動く年」であるとされています。この種の運勢に頼るわけではありませんが、先人の経験則からきた警世の歳時記として受け止め、何が起ころうとも不思議でない社会のリズムを覚悟しておいたほうがよいということでしょう。

昨今の諸情勢をみますと、イラク戦争の終結が思うように捗らず、北朝鮮拉致問題も壁にぶつかってままだであり、一方経済面でも日本の景気は回復が非常に弱いまま推

移しております。更には先日のある地方銀行の破綻をみても金融改革はまだ途上ですし、年金を中心とした福祉問題や治安問題などを考えますと、私たちの生活環境には厳しい逼塞感が充滿している状況にあります。それだけに本年を展望すると明るさは急テンポで戻ってくることは期待し難いと思います。然し、大昔から人間は難しい局面が現れても智慧を出して懸命に切り開いてきたのですから、それほど悲観的にならなくてよいと信じています。

翻つて、もつと身近なところは、わが母校もいよいよ平成十七年度から男女共学制に移行することを昨夏の県教育委員会で決定しました。また、行政面では古川市を核とした大崎地方一市六町の合併準備も進んでいます。私たちの郷里にも時代の大きな流れが現実的に押し寄せつつあるといえましょう。これらをも踏まえて、私たちの同窓会が更に前進して行くために役員一同努力して参ります。各位を始め同窓生の皆様の一層のご協力をお願いする次第です。同窓会は郷土愛、母校愛に発しているわけですから、こうした現実の変化を好むと好まざるとに関わらず謙虚に受け止めて行かねばなりません。そしてお互いに青春時代を共に過ごし、共に学んだ「共通の絆」を二層大切に参りましょう。

本年も恒例の古川市内四校合同新年会が一月十八日に開催されます。多数の方々にお集まりいただき郡部相照らして歓談したいものです。そして、ひとときの楽しい交流を膨らませて、今年も新会員の拡大に取り組んで行こうではありませんか。

次に、いよいよ情報化時代に相応しく「在京同窓会のホームページ」を公開することになりました。同窓生の方々にはぜひアクセスして情報交換・意見交換の場として活用していただき、同窓会活動の推進にも役立ててほしいと望むものです。会員相互のメディアとしては本紙「空雲」がありますが、年二回の発行では十分に意思疎通できるところまでは参りません。そこでインターネット上でホームページを設け、同窓会の活動内容をいつでも知ることができ、或いは双方向での対話交流ができるようにしようというものでして、まずは暫定版としてスタートさせます。この新しい方式を活用することによって、同窓会がもつと開かれた運営に進んで行くだろうと期待しております。ともかく激動の時代にあっても、私たちの同窓会が楽しい交流の輪を拡げて堂々と歩んで行くように皆さん方のご協力を切に願います。最後に、皆様とご家族のご健康を祈念して新年のご挨拶といたします。

新のご挨拶

古川高等学校校長 二宮 景喜



新年おめでとうございます。

在京同窓会の皆様には、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、いつも母校に対して激励とご支援をいただき、深く感謝しております。

昨年は冷夏など自然災害の多い年でした。特に五月と七月の県北地震では、各地に大きな被害がありました。南郷や鹿島台地区で家かなりの被害を受けた生徒もいました。生徒や職員に負傷者など出なかったのは不幸中の幸いでした。

そのような中で、生徒たちは元気に頑張っており、特に運動部は大活躍でした。また、進路面でも期待が持てますので、この三月には文武両道を実現した年として締めくくりたいと念じております。

さて、今年平成十六年は古高の新しい歴史を開くための準備の一年となります。ご存知のように、男女共学化について一昨年から校内に検討組織を立ち上げ、また、同窓会の方々にもご相談しながら準備を進めてまいりましたが、いよいよ平成十七年四月に入学する生徒(現在の中学二年生)から男女募集を行い、共学化することに

なりました。共学化の中で、目指す本校の将来構想は、伝統を活かしたレベルの高い進学校を作ることです。また、本校の校風である質実剛健、自主自立、学問第一などの精神のもとに、知力、気力、体力に優れた骨太の生徒を育てることです。

また、本校は創立以来、社会で活躍する幾多の人材を育ててきました。それは本校の役割であり、本領でもありますので、社会に貢献したいという志があり、古高で勉強することを強く望む生徒なら、男子も女子も受け入れるのが、今の時代では自然であると考えています。同窓会の方々からは、やむを得ない、あるいは残念としながらも、校名、校歌や、創立以来の古高の伝統を残しながら、時代にあつたよい学校を作ってほしいというお声を多くいただきました。

皆様のご心情をお察しすると、忍びないものがありますが、この歴史的転換によって古高はさらに大きな発展を遂げることができると確信しております。

今、本校は共学化の準備とともに、学習指導を進路指導の充実、部活や学校行事などの充実に、教員全体が一丸となって取り組んでおり、既に効果も出て来ております。生徒、保護者、地域そして同窓生の方々に喜んでいただけるように、古高の名に恥じない誇りと自信に満ちた学校づくりを目指して、今後進んでまいりますので、皆様のご理解とご支援をさらにお願いいたします。

今年も皆様のご活躍とご健康を衷心よりお祈りし、新年のご挨拶といたします。

本 部 同 窓 会 だ よ り

新年の挨拶



古高同窓会会長

野村 喜太郎

在京古高同窓会の皆様

明けましておめでとうございます

昨年の衆議院議員選挙の宮城四区では伊藤信太郎氏が二期目ご当選致しました。元衆議院議長の故伊藤宗一郎先輩も大変喜んでのことと存じます。これからの国政でのご活躍に皆様と共に大いに期待するものであります。

平成十五年秋の叙勲で大崎地方では二名の同窓会員が受章されました。赤坂正也氏・古川市北稲葉/旧中四十四回卒/教育功勞で瑞宝双光章、早坂政司氏・古川市沢田/旧中四十五回卒/農業振興功勞で旭日双光章を夫々受章されました。同窓会として心から祝意を表しご健祥をお祈り致します。

財団法人古高育英会に就いては、昨年度は財源が少ないので一名だけの奨学生でご心配をおかけ致しましたが、今年度は高九回卒有志の方々からご寄付いただいた額を活用し三名の生徒に奨学金を送ることが出来ましたことをご報告致します。

平成十七年度から女子生徒も入学することになりますので、校長先生を中心に職員一丸となつてそ

の対応準備に取り組んで居り、又授業を通じ進学率向上に努力致して居ります。

九月には生徒代表、教職員代表、保護者会長、同窓会役員、古川市長のメンバーで校名検討委員会を開催、各自一人一人に意見を述べて頂きました。現在の校名で何等支障なし、変更する理由なしとの全員一致で「宮城県古川高等学校」のまま意見がまとまりました。

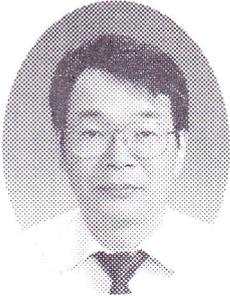
校歌に就きましては四番に「健児むなしくやむべきか」とありますが、通常二番までしか歌わないので差し支えないでしょうとのことで、校歌も今のまま歌い続けられると思います。

在京古高同窓会では、三浦会長さんを中心に会員増強やチャンネルを大きくし交流を深め、ふるさと牧場的役割に取り組んで居られますことに敬意を表し、益々のご発展をお祈り致し新年の挨拶と致します。

近 況 報 告



本部同窓会事務局だより



事務局長 清野 千秋

在京古高同窓会の皆様にはますますご清祥のこと、お慶び申し上げます。また日ごとから本校同窓

会へのご支援、ご協力に對しまして御礼申し上げます。

仙台市の泉が岳は先日(十一月中旬)初冠雪となり初冬の趣を一層濃くしております。本校生徒、特に三年生は、受験までの残された日々でいかに実力を強化できるかまさに天王山にさしかかっております。

今年度は、今流行の数値目標で表すと国公立現役五十名(昨年度の三十名からみればかなり厳しくはありますが)を掲げて生徒を指導しております。朝課外、七時間授業、放課後の課外が二時間、週末課題とかなり生徒には学習を強いております。この時期になるとやはり多少疲れ気味な様子を感じられます。本来ならば生徒自身が自主的に学習すべきで、周囲から追い立てられるものではないと思えます。が、本校の地域性や時期を考慮すると仕方のないものと思えます。

現在の古川高校の教員の間には、進学校として生徒を指導するという共通理解が形成されております。三年生の授業は十二月後半から特別編成授業といまして、通常の授業からさらに受験にシフトした授業を行います。昨年は一日四時間だったのが、今年度は七時間となります。

文武両道を掲げる古高として運動部の夏以降の活躍について触れたいと思います。

まずソフトボール部は、県大会で十六年ぶり十一回目の優勝を飾りました。全国選抜南東北予選は福島の小高高校に惜敗いたしました。県大会ベスト8になったのは剣

道団体、バレーボール部、ハンドボール部です。柔道部は団体予選リーグ三位でした。陸上競技部は佐藤正輝が東北新人大会で砲丸四位、円盤投げ六位でした。今年陸上で一番の話題は静岡国体に参加した高橋寿大が400mで八位入賞したことです。

昨年七月、県の教育委員会から共学化の正式発表がなされました。これに伴い、平成十七年度入学生となる中学二年生対象の学校説明会には、女子を多数とする定員を大幅に上回る生徒および保護者の参加をみることで、本校に対する地域の期待と関心を直接感じ取ることができました。本校は共学化に対する説明を同窓会、地域、保護者など機会を捉えて数多く行ってきたために大部分の方々からの理解を頂けたものと考えております。

共学化による校内設備の改善や新設も検討されております。校舎も大分古くなって、本来ならばこれを機会に建て替えられれば良いのですが、県の経済状態では望むべきもありません。それでも老朽化した第一体育館の取り壊し、新築は実現しそうです。また兄弟校である築館高校との定期戦を来年度どのようにするか、今後継続か廃止かを検討しております。

ここ二、三年で、宮城県の公立高校の多くが大きな変革の波にさらされることになりました。古川高校も例外ではありませんが、これが次の世代への大きな飛躍のきっかけになることを期待しております。そのためにも在京同窓会の力強くご理解とご支援を今後ともよろしくお願い致します。

本部同窓会出席報告

平成十五年度古川高等学校同窓会総会は、八月十日(日)の午後一時より古川市内のグランド平成にて開催されました。在京からは三浦会長の代理で、曾根副会長と私が来賓として参加いたしました。物故者への黙祷、開会宣言、校歌斉唱の後、野村会長・二宮校長からの挨拶と続き、前年の叙勲者への表彰が行われました。

学校側からの連絡事項として、二宮校長より、「共学化」の背景・理由の説明とともに、共学化の後も古川高校の伝統を活かしつつ、社会に貢献できる人材を育成していく旨の方向性が示されました。事務局からは、平成十六年の新年会(平成十六年一月四日)、総会(平成十六年八月八日)の案内と、当番幹事となる学年(高11、15、20、25、30、35回)の連絡がありました。

記念講演は、サッカーJリーグ「ベガルタ仙台」を運営する(株)東北ハンドレッドの社長である京極昭氏(中47回卒)が「自分で歩いてきた道」という内容でお話されました。氏は東北大学卒業後、河北新報社に入社し、ジャーナリストとして活躍され役員までなられた後、サッカーを通じてスポーツ文化を広めようと平成十一年より(株)東北ハンドレッドの社長に就任されました。サッカーに関して、監督交代に関するさきど判断や、黒字化までの軌跡、Jリーグに留まることに関する強いコミットメントについて熱く語られました。またジャーナリストとしては、インターネットの普及によって紙の新聞はどういう風に生き残っていくべきかについて、従来の新聞の作り方と対比しながら今後の方向性を示されました。

(文責 亀井)

平成十五年度 総会報告

前年の定時総会が61名という最低の出席者だっただけに、今回は開催日の時期と曜日を変更してみました。従来、七月に行っていた総会については、盛夏を避け一カ月前の開催に。そして、会員の方からいただく返信はがきの通信欄に「土曜日開催にしてみたい」というコメントがいくつも見られたことを受け、これも従来の日曜日開催を土曜日開催に改め、六月二十八日(土) 神楽坂エミールで開催いたしました。

総会の時期を早めたことにつきましては、従来の五月決算を三月決算に改め、この件を今総会の議題として提出・可決させていただきました。なお、決算報告等につきましては、次ページに掲載いたしましたので、ご参照下さい。また、在京同窓会の草創期に会長を務められ、一年前に他界された半田実元会長の奥様が総会にご出席され、懇親会の席上でご挨拶をされるという場面もありました。

講演 講師

(株)ヒューザー代表取締役

小嶋 進氏 (昭和四十七年卒)

恒例の講演には、大手マンション業界を抑えて、平均占有面積四年連続日本一を達成した異色のマンションデベロッパーを率いる(株)ヒューザー代表取締役の小嶋進氏(昭和四十七年卒)をお願いいたしました。

小嶋氏は色麻町のご出身、少年時代からの夢が「内閣総理大臣」。古高卒業後の浪人時代にはじめてアルバイトが思わぬ高収入となり「進学より商売」に憧れ、13回の転職を重ねたあと23歳で入社したデベロッパー会社自身が将来を見据えたことになりました。

昭和五十七年、28歳で百合子夫人と二人で大田区に不動産会社を設立。その後、経営方針を仲介から企画開発分譲へ移行して業績を伸ばし、創業から十三年目に本社を世田谷区三宿に。さらに飛躍を期して現社名に変更したあと一昨年、東京駅八重洲口南口から徒歩一分の「パシフィックセンターリープレイス丸の内」最上階の31階に移転し、ビジネスの中心地へ進出するようになったのですが、しかし、それまでの会社経営は決して順風満帆だったわけではなく、無一文になって会社清算を決意したこともあり、会社のつとり計画に遭遇したこともあり、幾多の荒波と挫折を乗り越えて今日を築き上げられたので、今回は「挫折乗り越え丸の内」というテーマで講演をしていただきました。

「諸先輩の前で講演するなんて、とてもとても・・・」。

晴天のときは富士山も望める展望室のような社長室で、初交渉では断られました。その後、電話攻勢に「では、失敗談でもやりましょうか」ということになって、引き受けていただいたのです。母校とふる里を人一倍愛し、

家族への思いやりを大切にしている小嶋氏ですが、趣味は自家用飛行機の操縦です。飛行機に関心を持ったのは古高生の頃だったそうですが、操縦桿を握ること、会社経営は共通点があるということだそうです。空を飛ぶことは、一歩間違えば死に結びつきますが、会社を飛行機に見立て、小嶋社長に万が一のことがあっても支障のないような体制を整え、小さな異常も見逃さず、問題があれば早期に解決するよう心がけているそうです。

最近の新聞のコラムに、ある著名なバイオリニストが、ヨーロッパから帰国するとき飛行機トラブルに遭い、乗客が騒然となった、中には遺書を書く人がいるのを見て、「私はまだ死にたくない。まだ名演を残していない」。その後、毎回ステージで、「この演奏が、バイオリニストとして最後であつてもいいように魂を込めて」と。しかし、いつも演奏会のあと、「あんな演奏ではまだ死ねない」。ビジネスも芸術も心構えは同じなのです。

小嶋氏のさらなる夢は、ジェット機を購入して世界一周をすることだそうです。

経済不況が長引いている中、最近では企業の廃業率が開業率を上回り、これが日本経済の規模を縮小傾向に向かわせている要因のひとつと思われませんが、小嶋氏の事業を起す意欲とアイデアについて、これからベンチャービジネスを立ち上げようとする人達に勇気を与える講演内容でした。(文責 曾根)

平成15年度 総会出席者名簿

〔来賓〕 (5名)

- 伊藤信太郎 (衆議院議員) 二宮 景喜 (学校長) 野村喜太郎 (同窓会長 S18)
三浦 良 (在仙会長 S24) 清野 千秋 (同窓会事務局長 S43)

〔会員〕 (67名)

- 昭17 高橋 淳夫 昭24 斎藤 馨 昭27 中森 高 昭30 佐藤 忠良 昭32 高梨 利通 昭37 中鉢 泰平
昭18 佐藤 幸雄 昭25 三浦 澄能 昭28 春田 紘輔 昭30 佐藤 寿哉 昭32 水上 忠彦 昭44 高橋 修一
昭19 渡辺 三男 昭25 荒井 隆 昭28 金子 康 昭30 佐藤 久 昭33 大友 正行 昭47 小嶋 進
昭20 青沼 康男 昭26 工藤英三郎 昭29 中川 裕雄 昭30 曾根 研一 昭51 早坂 時男
昭20 安倍善次郎 昭26 鈴木一太郎 昭29 高橋 清亮 昭30 二階堂幸雄 昭55 早坂 明
昭20 青野 昭男 昭26 遠藤 惇 昭30 早坂 清吉 昭30 平野 武 昭55 亀井 俊也
昭20 前田浩一朗 昭26 鈴木 桂吾 昭30 阿部 一彦 昭30 師山 政夫 昭55 平 8
昭20 森谷 侑一 昭26 角田 啓輔 昭30 岩城 光将 昭30 渡辺 吉郎 昭34 森谷 拓夫
昭20 横山 榮治 昭26 谷地 森 昭30 尾崎 光彦 昭30 渡辺 吉郎 昭34 森谷 志智
昭22 倉澤健治郎 昭27 太田 健 昭30 門脇喜代志 昭31 石堂十六男 昭34 都築 光彦
昭23 菅 昇 昭27 今野 健 昭30 岸 康男 昭32 佐藤 満行 昭35 岩崎 光二
昭24 今野 徹 昭27 佐藤 清勝 昭30 京 恒由 昭32 佐藤 勝也 昭35 高橋 詔二

森谷建設株式会社

代表取締役 森谷 侑一

昭和20年卒

〒336-0923 埼玉県さいたま市緑区大字大間木2395
TEL 048-874-2610

士 理 士 青沼康男
不動産鑑定士

(昭和19年卒)

〒108 東京都港区芝4-6-16 ライオンズ三田805
-0014 TEL 03-3452-2004
FAX 03-5476-8006

平成14年度 活動報告

平成14年6月1日～平成15年5月31日

年月日	活動内容	場所
平成14年 6月30日(土)	会報雪29号と総会案内発送	信陵会館
7月30日(日)	総会・講演会・懇親会 講師 阿部 雄一郎氏 (S22年卒) 演題 「伊達政宗と岩出山及び古川祇園八坂神社の天井画について」	神楽坂エミール
8月11日(日)	同窓会本部総会出席 (三浦会長・亀井編集長)	古川市グランド平成
11月29日(金)	関西雪25周年記念総会出席 (三浦会長)	芦屋市ホテル竹園
12月21日(土)	会報30号と古川市内四校合同新年会案内発送	信陵会館
平成15年 1月19日(日)	「第10回古川市内四校関東同窓会 新年の集い」開催 (幹事校・古高) (古高 89名・古女 72名・古工 32名・古商 36名 来賓 3名 合計232名出席)	上野精養軒
1月25日(土)	在仙古高同窓会出席 (横山副会長)	仙台市東急ホテル
3月1日(土)	古高卒業式並びに「東京雪賞」表彰式出席 (曾根副会長)	古川高校
5月31日(土)	会報雪31号と総会案内発送	信陵会館

◎役員会：信陵会館
 第1回 H.14年 6月1日(土) 14名(会報発行準備他)
 第2回 H.14年 6月30日(土) 12名(総会準備他)
 第3回 H.14年 7月11日(木) 12名(総会資料準備他)
 (関係役員会) H.14年10月26日(土) 6名(新役員選出準備会)
 第4回 H.14年11月27日(木) 16名(新役員選出他)
 第5回 H.15年 3月21日(金) 15名(四校合同新年会報告他)

◎四校合同幹事会：東京文化会館会議室
 第1回 H.14年 9月25日(水)
 第2回 H.14年11月14日(木)
 第3回 H.14年12月19日(木)
 第4回 H.15年 1月10日(金)
 第5回 H.15年 2月22日(土)
 古高出席者：春田、佐藤(清)、曾根、渡邊(吉)、岩崎

平成14年度 決算報告

<収入の部>

自 平成14年 6月 1日
至 平成15年 5月31日

科目	決算額(円)	予算額(円)	増減△	備考
年会費	830,000	800,000	30,000	415口 @2,000
広告料	210,000	200,000	10,000	企業・個人広告
寄付・祝儀金	76,000	300,000	△ 224,000	個人寄付等
雑収入	159,230	200,000	△ 40,770	総会・新年会・剰余金等
収入計	1,275,230	1,500,000	△ 224,770	
前期繰越金	2,395,663	2,395,663	0	
合計	3,670,893	3,895,663	△ 224,770	

<支出の部>

科目	決算額(円)	予算額(円)	増減△	備考
会議費	53,868	50,000	3,868	役員会、会場使用料
印刷費	560,869	530,000	30,869	会報、案内状、封筒他
事務用品費	27,238	30,000	△ 2,762	コピー・文具代
事務所経費	30,000	30,000	0	年間契約料他
通信費	268,144	300,000	△ 31,856	電話、切手、はがき
慶弔費	143,890	100,000	43,890	東京雪賞、祝儀、香典
組織強化費	24,129	150,000	△ 125,871	若年層対策費
旅費交通費	82,997	120,000	△ 37,003	本部・在仙総会、卒業式
雑費	5,060	10,000	△ 4,940	
支出計	1,196,195	1,320,000	△ 123,805	
次期繰越金	2,474,698	2,575,663	△ 100,965	
合計	3,670,893	3,895,663	△ 224,770	

次期繰越金 内訳
 預金 郵便局 2,265,021円
 預金 東京三菱銀行 107,449円
 口座貯金 郵便局 1,540円
 現金 100,688円
 計 2,474,698円

会計監査の結果、以上の報告書の通り誤りのないことを認めます。

平成15年6月17日 監事 青沼 康 男

監事 谷地森 祝



平成15年度 活動計画

平成15年6月1日～平成16年3月31日

年月日	活動内容	場所
平成15年 6月28日(土)	総会・講演会・懇親会 講師 小嶋 進氏 (S47年卒) 演題 「挫折乗り越え丸の内」	神楽坂エミール
8月10日(日)	同窓会本部総会(出席)	古川市
12月20日(土)	会報雪32号及び四校合同新年会案内の発送	信陵会館
平成16年 1月初旬	本部同窓会新年会(出席予定)	古川市
1月中旬	在仙古高同窓会(出席予定)	仙台市
1月18日(日)	「第11回古川市内四校関東同窓会 新年の集い」開催 (幹事校・古川工業)	上野精養軒
3月1日(月)	古高卒業式並びに「東京雪賞」表彰式(出席)	古川高校
5月29日(土)	会報雪33号と総会案内発送	信陵会館

◎役員会：
 定例は年間3回、その他必要案により関係役員会を開催
 第1回定例6月14日開催：総会運営

◎四校合同幹事会：
 四校合同新年会(H16.1.18)にむけて、9月中旬から1月中旬までの間に4～5回開催する。
 古高出席者：春田、佐藤(清)、曾根、渡邊(吉)、岩崎

平成15年度 予算

<収入の部>

自 平成15年 6月 1日
至 平成16年 3月31日

科目	予算額(円)	前年実績(円)	増減△	備考
年会費	850,000	830,000	20,000	425口@2,000
広告料	200,000	210,000	△ 10,000	10,000×20口
寄付・祝儀金	70,000	76,000	△ 6,000	個人寄付等
雑収入	160,000	159,230	770	総会・新年会・剰余金等
収入計	1,280,000	1,275,230	4,770	
前期繰越金	2,474,698	2,395,663	79,035	
合計	3,754,698	3,670,893	83,805	

<支出の部>

科目	予算額(円)	前年実績(円)	増減△	備考
会議費	50,000	53,868	△ 3,868	役員会 会場使用料
印刷費	560,000	560,869	△ 869	会報、案内状、封筒他
事務用品費	30,000	27,238	2,762	コピー・文具代
事務所経費	30,000	30,000	0	年間契約料
通信費	300,000	268,144	31,856	電話、切手、はがき
慶弔費	120,000	143,890	△ 23,890	東京雪賞、祝儀、香典
組織強化費	110,000	24,129	85,871	若年層対策費
旅費交通費	100,000	82,997	17,003	本部・在仙総会、卒業式
雑費	20,000	5,060	14,940	
支出計	1,320,000	1,196,195	123,805	
次期繰越金	2,434,698	2,474,698	△ 40,000	
合計	3,754,698	3,670,893	83,805	

私に与る自由投稿

私の卓球人生(その4)

26年卒 角田 啓輔



左：小林選手、右：程塚監督
世界青年スポーツ大会(S30) 於：ポーランドのワルシャワ

つれ込み、「三対二」で辛うじて東京が僅少の差で勝った。

昭和二十七年、第七回秋季国民体育大会は、宮城県で開催された。卓球種目は仙台市内のレジヤータンターが大会々場である。私は地元での国体なので、宮城県代表として出場しなかったが、住所をすでに東京に移している為、学生以外は所在地(現住所)以外からの参加は認められず、やむなく東京都の予選会に出て、東京都代表として、宮城国体に参加する事となった。

7. 大学時代

(1) 昭和二十九年(三十三年)

中央大学に入学

昭和二十九年、三年間勤務したアームストロング社を退社して、中央大学を受験することにした。中大を選んだ理由は、中大の学生に顔なじみが多かった事、真面目で練習態度や規律が良かった事、監督が入学勧誘に熱心だった事、等々が挙げられる。しかし、いざ入学の準備となると、学業を離れて三年間のプランクがあり、入学試験には全然自信が無かったが、結果は合格したので、これは偏に卓球のお陰と思っている。

(2) 国際青年スポーツ大会

中大に入学した翌昭和三十年夏に、国際青年スポーツ大会が、ポーランドのワルシャワで開催され、

日本からは、陸上競技、体操、レスリング、卓球の四種目が参加した。団長は陸上の織田幹雄氏、他三段跳びの小掛、マラソンの山田敬三、体操は小野、レスリングは笹原選手等、卓球は程塚監督に私と専修大学の小林選手の三名で参加、監督、マネージャーを含めて総勢十数名の選手団での遠征であった。

当時のポーランドは、東側陣営の為、香港から中国、ソ連等の共産圏内経由の旅程だった。

当時の香港は、英国の統治下にあったので、中国本土に入るには国境になっている川の鉄橋を徒歩で渡らねばならなかった。対岸には鉄条網が張られて、中国解放軍の兵士が小銃を構えて見張っており、その前を通る時はさすがに緊張した。

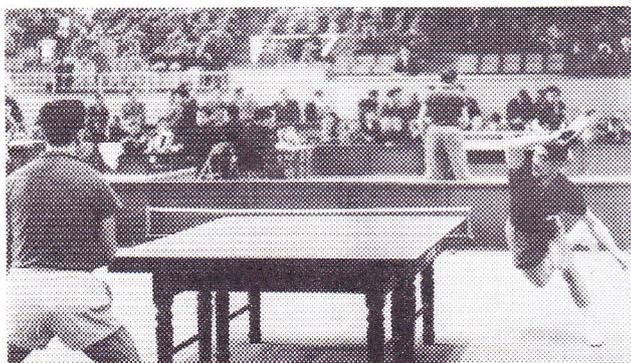
北京までの道程は、人員の輸送用に改造された旧日本軍の単発戦闘機での移動で、一機に数名しか乗れず分乗となった。機内は左右両サイドに藤椅子が置かれ、三、四名が向かい合って腰掛ける。離着陸時の機体の傾斜に備えて、藤椅子は荒縄で縛って固定してあった。

飛行機の運行持続性はきわめて短く、約二時間間隔で給油の為に離着陸の繰り返し、飛行場は滑走路も無く野原からの発着だった。しかし、当時の中国の状況を考えれば、これが最高の輸送手段だったのであろう。二度と体験の出来ない北京までのスリルに富んだ二日間の旅だった。

(3) 第二十三回世界選手権大会

(東京大会)

昭和三十一年四月、第二十三回



昭和27年11月 第1回アジア選手権大会(シンガポールにて)

世)手権大会は、東京千駄ヶ谷の東京体育館で開催された。日本での開催は初めてであり、私にとっても初出場である。開催国とあって男女十六名づつ計三十二名の日本代表選手が決定、更に団体戦に出場する四名(荻村、富田、田中、角田)の中に選ばれた。男子の団体戦は双方三名の選手が、相手国の三選手と対戦し、九試合中五点先取で勝敗が決定する。本大会の日本チームは準決勝でルーマニアと対戦した際、富田選手の不調から大接戦となり、五対三で勝ちましたものまさに薄氷を踏む思いだった。決勝はチェコ戦で、不調の富田選手に代わり、私の先発が決められ一点を先取し、五対一で優勝、日本男子団体三連覇に貢献する事が出来た。また田中選手と組んだダブルスで三位に受賞する事が出来た。(つづく)

政権とカアチャン たまに変わるのも？

積水工業株式会社

空調・衛生・電気工事

S28卒 取締役会長 金子 康

本社 目黒 (03) 3793-5711 仙台支店 (022) 235-7009

“アウトソーシングを支援する”

パルスタッフ株式会社

代表取締役 渡邊 道雄

S28年卒(鹿島台町)

本社 〒166-0002 東京都杉並区高円寺北1-4-10

TEL 03-5343-5821 FAX 03-5343-5822

立川営業所 (042-528-8585) 神奈川営業所 (0462-77-0791) 甲府営業所 (0551-21-2046)

E-mail: m.watanabe@palsbk.co.jp

在京古高柔道部OB会の現況について
26年卒 鈴木 桂吾



在京古高柔道部OB会は、関東地区で約六十三名の世帯で、定時総会や四校合同新年会の運営や設営を支える大きな力となっている。

懇親会は桜の三月と暮れの十一月の二回で、今回は十一月二十九日(土)夜、恒例の八重洲の店に二十二人が集まり、楽しい懇談と飲食の後、和氣藪々裡に散会した。

次に、各出席されている方々を中心に、会の現況を紹介してみたい。(敬称は略)

会長は二十七年卒の春田紘輔(五段)で、戦後古高柔道部を復活させた初代主将であり、学院大でも主将を務めて名があり、今もJR東京駅内の道場で後進の指導に当たっている。

次に会長を支える事務局長の早坂時男(三段)は五十一年卒と若いですが、神奈川県から建設会社へ進み、会の発展に献身的に努力している。

最も古い会員に伊藤守治(八十七歳、四段)がいる。氏は昭和九年卒で、古中主将、高等商船主将として活躍し、海軍から西武に入り長く米国で過ごし、現在も矍鑠として毎回必ず出席されている。次に、先輩として横山榮治(二

段)がいる。氏は二十年卒で古中最後の柔道部を背負ってきた。現在在京同窓会副会長として運営に努力されている。

次に残念ながら一昨年暮れに故人になられた半田実(六段)は忘れたい人である。氏は昭和二十二年卒で、十年間在京同窓会会長をされ、柔道歴も古中、古高を通じて最高の輝きを放った。葬儀には春田会長他三名が参列し、会から生花を献じている。

次に昭和二十六年卒に遠藤惇(三段)と小生(五段)がいる。遠藤は東北大時代には母校の古高柔道部復活に尽力した人であり、鈴木は戦後の柔剣道禁止令によって部活の経験はないが、卒業後に警視庁で多少携わった者として招き入れられており、二人とも毎回出席している。

昭和二十七年卒には菅原峯雄(元NCR常務)と野田真治(東武中央病院副院長)がおり、春田の柔道部復活を手伝ったが、今参加が減っているのが寂しい。昭和二十八年卒の加藤源治(二段)は毎回出席されているが、柔道部復活の功労者と言う。

昭和三十年卒では、仙台から堀越五郎(七段)が常連として出席されている。氏は現在、宮城県柔道連盟副会長と東北大師範であり、古高柔道部の大きな柱になっている。同期の佐々木豊(四段)も毎回、群馬から駆けつけてくれている。

昭和三十二年からは、高橋清七郎(三段)と佐藤満行(三段)が常連である。昭和三十五年卒の高橋詔二(三段)は警視庁、署長

をした逸材であり、常連である。昭和四十一年卒の菊地務(四段)古高時代に各大会で常に上位を占めた名手というがこれも常連である。

昭和三十六年卒の坂本祿郎(四段)と昭和四十一年卒の藤井欣三(三段)は警視庁出と現埼玉県警であるが、今回入会し出席された。

昭和四十三年卒の石川正二(四段)は、兄の正一(全国大会準優勝)と共に名があるというが、今茨城で食肉会社を大きく経営するという異材であるが、彼も常連である。

昭和四十五年卒の島山英洋(五段)は、県大会で個人二位の実績を持ち、早大でも選手をしていたが常連として出席してくれている。特筆すべきは昭和五十年卒の小林信之(六段、県大会個人優勝)で古川市で会社経営の傍ら母校柔道部の監督をしており、毎回欠かさず出席し、母校の現況を報告してくれている。昭和五十一年卒の道家篤夫(二段)も常連としてよく出席してくれている。

次に若い人が多く参加してくれているのが本会の特徴である。昭和五十三年卒浅野勝弘(二段)が今回入会し出席している他、平成八年卒の奈須野宗隆(三段)と千葉俊也(二段)は、会の常連であり、定時総会等の裏仕事を欠かさない。

平成九年卒の太友悟郎(初段)と高橋潔考(二段)、平成十二年卒の菊地洋孝(初段)と伊藤嵩(初段)らの大学生らもよく参加してくれている。平成八年卒の佐々木秀和(二段)が今回入会し参加し

てくれた。最後に在京同窓会との関連であるが、現在三浦会長を先頭に全役員が、会員倍增を目指して努力中であるが、甚だ苦戦をしている。それを助ける方策として、各年次同窓会の充実と連携を図る他に、各運動部、文化部OB会や同好OB会(ゴルフ、旅行等)との密接な連携が必要である。伝統ある各OB会のご協力が是非必要であり、各OB会の存在・構成を事務局にご連絡いただきたく、且つ現況を送っていただきたいと思う。



日曜大工園芸用品卸 貸ビル、貸マンション業

株式会社 佐々木商事 代表取締役
株式会社 アクアベンドジャパン 代表取締役副社長

佐々木 光一路 (昭和33年卒)

〒144 東京都大田区南蒲田1-1-21 佐々木ビル
-0035 第一京浜国道沿い京急蒲田駅前
電話 (3739) 2468
FAX (3732) 7700
HOT Line 090 3202 6393

ケーヨーは情報化時代の未来を拓くパートナーです。
文書 図面 写真 音声 映像を簡単にCD-ROMにします。

データベースの入出力・活用 デジタル変換
コピーサービス 総合印刷 CAD入出力
文字情報入出力 プリペイドカード



デジタルデータ作成支援 官公庁完成図書作成コンサル

株式会社 ケーヨー

代表取締役会長 早坂 清吉 (昭和29年卒)

本社 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-1-6 TEL03-3242-0191
横浜支店

旧制古川中学校 第四十五回卒同級会報告

20年卒 伊勢 行雄

平成十五年六月十二日・十三日、二年半ぶりに同級会を、鳴子町湯元の鳴子観光ホテルで開きました。参加者二十六名、荒雄川畔、花湖山などのあざやかな緑を満喫し、自然のめぐみと、ふるさととのありがたさに感謝をしてのついでになりました。同窓会名簿にある第四十五回生百七十三名のうち六十二名の物故者に対して黙祷を捧げました。例年に増して感慨無量なるものがありました。

当番幹事古川市の開会の挨拶、在京古高同窓会副会長横山榮治君挨拶のあと、「心の琴」の斉唱は、お互いの無事を確かめ合う喜びのひとつときでもありました。私達同級生は、昭和十六年の入学、同年十二月太平洋戦争（岩波年表昭和史）が始まり、昭和二十年、卒業した年の八月が終戦で、在学四年間、あたり前でない学生生活でした。鳴子の夜、時間がたつにつれて、級友共に童心、童顔にかえり、わずかな学業の想い出に加えて、昭和十九年六月・花山村水力発電ダム工事、同月松島馬放島海洋訓練、七月・桜の目芋掘り奉仕、八月・北仙台本山製作所に学徒動員等々、学校を離れての奉仕の日々の思い出話が続きました。同級生最年少で七十四才、それぞれ第一線から一步、二歩後退をしましたが、今、どんなことを生きがいに、また、どんな楽しみを、さらに健康の秘訣は等、互いに級友からいっぱい元氣をもらい、再会を約して散会しました。

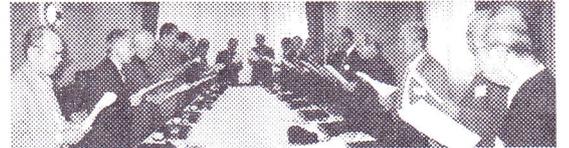
さんざぼんざの集 二十名参加 ぎやろつぱ会

24年卒 門脇 健

「若さの再生と友情の進化」を合言葉に十月二十二日正午より、東京・一ツ橋の如水会館に二十名（うち古川から三名）が参加して開かれた在京ぎやろつぱ会の本年度総会兼懇親会のさんざぼんざの展開概要は次の通り。（一）は担当者、敬称略。

なお、江戸開府四百年にちなんで企画された「皇居東御苑の散策」は雨のため中止となった。挨拶を兼ねた会務の報告（門脇健）、会計報告（菅昇）に続いて、まずは乾杯（渋谷喜光/古川）となり、喉のうるおったところで声高らかに校歌合唱（佐藤欽一/古川）。舌がなめらかになったところで自己紹介と近況報告が行われたが、ほとんどの人が「一病息災」で健康保持、活力増進、日々是好日に工夫をこらし精を出している様子。次いでスピーチに移り、感動そのものの実話「感動の盲導犬物語」（三浦澄能）と徹底した食事と徒歩管理で完治した「私の糖尿病克服記」（斉藤馨）は大変好評で質問が相つぎ、時間の経過を感じさせないほどだった。なお、三浦夫人である三浦英子著「ちびっこオルガは盲導犬」が全員に贈られた。暫しの歓談を経て記念写真を撮り、古川方面の近況報告（高橋亨/古川）を開き、うさぎ追ひし：の「故郷」（大金昭夫）を合唱し、船形おろしの雪消えて：の凶南歌を添えた中締め（鈴木大吉）と相なったが、「次回は来年の秋：」の

今は昔の古中・古高時代に返って、姿勢を正して熱唱するぎやろつぱ会。



意向が示されるや「二年は待てないぞ。ぜひ、来年の春か夏にまた逢おうや：」との強い提案があり、具体策は世話人会一任となる。かくして、さんざぼんざの集いは大幅に時間オーバーし午後二時四十分過ぎ、健康と再会を約してお開きに至った次第。※在京ぎやろつぱ会は、昭和十八年古中入学、同二十三年卒・古高・同二十四年卒の同期の会。

第三回首都圏古高三十年卒同期会

30年卒 佐藤 忠良

標記の同期会が十月十一日（土）十六時より、日本青年館で開催されました。穏やかな陽射しに恵まれ、やや色づき始めた神宮外苑では、各種のスポーツが繰り広げられ、会場の脇の広場ではフリーマーケットに大勢の人が集まっておりました。

平成十一年に第一回、平成十三年に第二回が開催され、昨年は「第一回古高・古女昭和三十年卒合同関東同期会」（会報第三十号参照）が開催されましたので、本年は当初、その第二回目を計画致しましたが準備が遅れ、今回は古高のみで「実りある人生を！」のテーマの下、第三回同期会を開催することになったのです。タイトルは首都圏と銘打ってあ

第三回首都圏古高30年卒同期会



り）が口コミで広がり、地元古川より二名、仙台より一名、愛知県より一名の参加を得、総勢二十九名の方々が集まりました。定刻過ぎに記念写真の撮影、校歌斉唱、物故者への黙祷で始まり、会は曾根幹事の各司会の下に進行し、アルコールが入るにつれ会話が大きい弾み、中には高校卒業後四十八年ぶりの再会を喜び合う人達も、あちこちに見られました。会の半ばでは、「平成十七年度より母校古高の男女共学への移行」とか、地元では「ヒトメボレ」の創造に関わった佐々木武彦君（元古川農業試験場長）の発案で、国際協力事業団（JICA）の技術協力の一環で派遣されたルソン島北部山岳地帯の秘境「世界遺産の棚田を訪ねる旅」が企画されていること、などの話題が報告され、会は大いに盛り上がりましたが、予定の時間はアツという間に過ぎ、次回の再会を約して散会し神宮の森を後にしました。

佐藤 啓三

(S40年卒 中新田)

中小企業診断士・ISO審査員・エネルギー管理士



ISO (品質・環境)・技術・経営
コンサルティング・グループ
株式会社 経営技術機構 所属

〒105 東京都港区虎ノ門5-3-20 仙石山アネックスビル1階
-0001 TEL 03-5425-2491 FAX 03-5425-2492
自宅 〒241-0004 横浜市旭区中白根2-22-19
携帯 090-1438-9132 E-mail FZN04730@nifty.ne.jp

特定非営利活動法人

日本刀剣保存会

みやのていじ
理事長 宮野 貞司

S34年卒

〒142-0053
東京都品川区中延3-13-17
TEL・FAX 03-3782-5326

会員消息

在米の浅野和夫氏(30年卒)が「在京」の会員に

米カリフォルニア州に住む三十年卒の浅野和夫氏がこの度、在京同窓会の会員になりました。

ことの発端は、浅野氏の日本の留守宅が拙宅に近いこともあって、一年ほど前、氏が帰国したとき会う機会があり、「蛍雪」を見せたところ、離日してから「不都合がなければ、「在京」の会員にならせて下さい」と年会費を送ってこられたのです。

その後も、「角田氏の『私の卓球人生』を見ましたが、古高での模範試合を今でも覚えております」「南加宮城県人会で知り合った昭和三十九年卒の大場弘毅君(高清水出身)にも『蛍雪』を見せましたが、高清水小の先生だった貴君のお姉さんのことを知っておりましたよ」「もう一人、ロス近郊に『ツルヤ』という同窓生が居ることがわかりましたので、近く三人会をやりませう」「カリフォルニアの山火事は、二百キロ位は離れています

お知らせ 第11回古川市内 四校合同新年会

- ・日時：平成16年1月18日(日) 11:30~15:00
- ・会場：上野精養軒
- ・会費：8,000円
- ・公演：語り/伊藤 恵子氏 (古川女子高 昭和29年卒 旧中新田出身)

「山本周五郎作
「さるすべり」」

(伊達政宗の時代、白石城攻防に関わる若き武将夫婦の愛情物語)

- ・交通案内：上野駅公園口より徒歩5分



上野公園4番58号
電話 (3821) 2181

事務局より

が、風の加減で煙がなびいてきて、さなくさい臭いがしたり、灰も落ちてくる日が数日は続きました」と電子メールで何度お知らせがあらりました。

(30年卒 曾根研一)

かねてからインターネット上にBBS、電子メールを活用した専用のホームページを設けて活動を活性化させようというアイデアはあったのですが、今回ようやく実現しました。本部同窓会はホームページを持っておりませんので、在京古高同窓会は一歩先んじた形

在京古高同窓会ホームページ開設!

アドレス：<http://www1.ttcn.ne.jp/furuko/>
コンテンツ

- ①沿革 ②会則 ③組織・役員
- ④イベント(総会、新年会の連絡等)
- ⑤会報「蛍雪」のバックナンバー(pdf形式)
- ⑥母校ホームページ
- ⑦在校生へのメッセージ
- ⑧編集長からの新しい同窓会活動の提案

ご意見、ご要望は以下のメール宛にどうぞ。
電子メール：zaikyo-furuko@mx5.ttcn.ne.jp

になります。今後は本部ホームページ開設の要望を本部に対して働きかけていきたいと思えます。ホームページは完成版というわけではありませんので、皆様からのご意見を取り入れ、より充実したものにしていきたいと思えます。

編集後記

・古高共学化についてはこれも時代の流れかという感じがします。
・角田さんの「私の卓球人生」は、毎回非常に細かい点まで臨場感が伝わってきて感心しています。

・在京古高同窓会の屋台骨を支えている在京古高柔道部OB会の活動は非常に興味深いです。他の部のOB会の活動も是非お知らせいただきたいと思えます。
・現在は8ページ構成となっていますが、今年は皆様方から協力をいただき広告を増やすことで10~12ページに増ページし情報量を増したいと考えています。

HUMAN USER COMPANY
HUSER
HUMAN USER COMPANY

「スカイプラット31」オープン!
110m²マンション展望ギャラリー

東京駅徒歩1分の夢展望台

SKY PLAT 31
東京駅八重洲南口31階に誕生!
OPEN 10:00 CLOSE 22:00
フリードリンクサービス・ネット検索コーナー

株式会社ヒューザー 代表取締役 小嶋 進 (古高47年卒)
〒100-6231 東京都千代田区丸の内1丁目11番1号
パシフィックセンチュリープレイス丸の内31階
☎03-3284-0123 FAX 03-3284-0120
URL <http://www.huser.co.jp> E-mail: info@huser.co.jp

IICIT

30年のキャリアと世界のネットワークを駆使し、個人の旅行、グループ研修、修学旅行のお手伝いをさせていただきます。
～同郷の皆様、ぜひお気軽にご相談ください～

(株)インターナショナルヒューマントラベル
代表取締役社長 中鉢 泰平/鳴子出身・S37卒

〒164-0001 東京都中野区中野2-29-15-204
TEL・FAX 03-5385-3693